

くらナビ ライフスタイル

結果は自分で引き受ける

がんステージ4を生きる

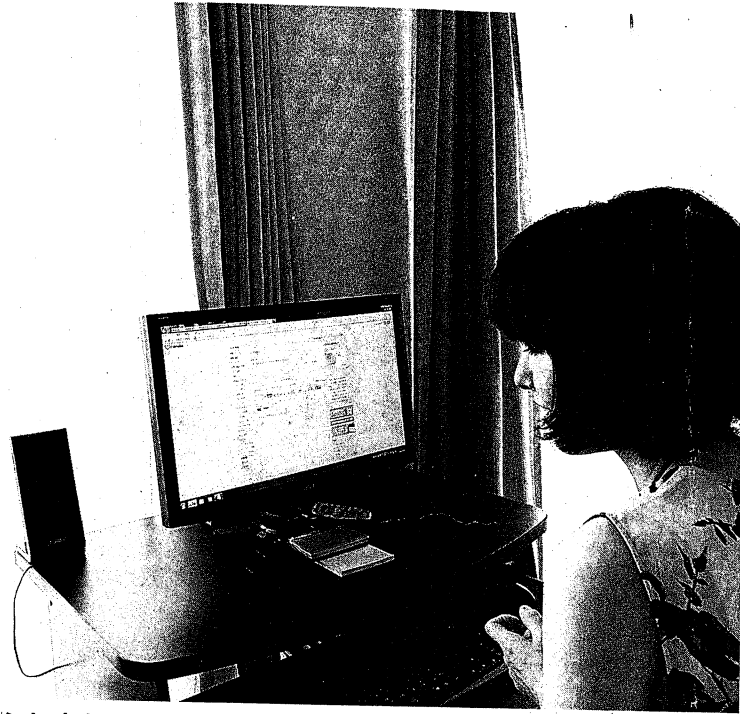
笑顔で過ごしたい

2

乳がんはほかのがんに比べて進行が遅く、最も重い「ステージ4」でも治療をしながら、比較的長く日常生活を送ることが出来る。仕事や子育てに忙しい30〜50代の患者も多いが、それぞれの人生観に照らしながら、どのように病と闘っているのか。同年代のステージ4の乳がん患者を訪ねた。

●術後3年で転移

「息子の高校の卒業式には出られないだろうと思っていました」。東京都に住む地方公務員の広瀬満重さん(53)はそう話した。再発からすでに6年半が過ぎ、小学生だった息子は今春、大学生になった。「抗がん剤で髪が抜けないように」と2年前に遺影も撮ったが、80代の両親が健在で、できれば逆縁は避けたいと思う。



パソコンに向かう吉野美香さん。窓の外に緑が広がる部屋で、毎日、ブログの読者と対話する—京都市で

最初に乳がんが見つかったのは2005年。しこりは1センチ、ステージ1の早期発見だった。しかし、手術を経て

3年後に胸骨や鎖骨、両肺などに転移。半年間休職した後、治療と仕事を両立させながら今に至る。

「再発治療では患者自身の生き方が問われます。どんな道を選んで、結果は、良くも悪くも自分で引き受けるしかない」

●薬の投与量に上限

●無治療の選択も

「特にお金の問題は深刻です。がんが原因で解雇や退職、降格を余儀なくされた人は少なくありません」。前職で社会貢献活動などの仕事に携わった経歴を生かし、がん患者の就労支援ができないか模索している。体調も安定し、今の施設を出て一人暮らしを始めるとも近い。

「積極的な治療を行わない「無治療」の道を選んだのは京都市の主婦、吉野美香さん(50)だ。30代半ばに胸のしこりに気づいたが良性腫瘍の「線維腫」と診断され、数年後、再度受診するとステージ3の乳がんを告知された。医師は手術を勧めたが、吉野さんは立ち止まった。

「がんの特効薬がない限り、そのずれを解消することは難しいのかもしれない。【三輪晴美、写真も】」

「抗がん剤は、がん進行の指標となる「腫瘍マーカー」が正常値に下がるほどの効果があった。しかし一人当たりの投与量に上限があり、数カ月先には薬を変えなければならぬ。それから後は、何が起るか分からないと思

「長男(26)が幼い頃に入院した病院で、薬の副作用に苦しみながら亡くなる多くのがん患者を見た。「自分は元氣なまま死にたい。与えられた命をそのまま生きよう」。反対する夫(51)と長男を説き伏せ、治療は受けないことに決めた。

感想やご意見を

連載への感想やご意見、体験などをお寄せください。郵便は〒100-8051(住所不要)毎日新聞くらナビ「がんステージ4を生きる」係へ。メールは表題を「がん」としてkurashi@mainichi.co.jpへ

花火大会

生まれ育った町の花火大会に行ってきました。全国的に名が知れているので年々人出が増し、今年は50万人を超えたと

幼いころは場所取りをせずとも河川敷が見渡せ、打ち上げも仕掛けもよく見えました。家族とともに出かける数少ない娯楽の機会でした。学生のころは音に気づいて、遠く建物の隙間から打ち上げ花火を見る程度でした。勤めていた時は忙しくてまったく無関心でした。

女の気持ち 2014.8.20

家庭を持ってからは夫の両親親戚のもてなしに追われ、1年で一番せわしい日となりました。時折連れ立って見物に行く人も混みで近寄れず、おなかに響く音と頭上に広がる花火で臨場感を味わうのみでした。仕掛け花火をもう一度見たいと思うようになったのはこのころでした。

花火の音がかすかに聞こえるこの地に引越して17年。両親が他界し、花火見物の帰り道、背負ってくれたおしも亡くなり、花火を見たいという思いが強く湧いてきました。

食卓の一品

1マンベールとサンショウの焼きおにぎり

1人前 633kcal、塩分0.9g

お酒の後の締め的人气メニューです!

主な材料>>(2人分) ご飯 膳分▽カマンベールチーズ 個▽サンショウの炙のしよゆ漬け大さじ3▽塩小さじ▽オリーブ油大さじ1 作り方>> カマンベールは2割角に切

料理研究家 松田美智子